

遊休農地を使った大豆生産活動を通じた子ども・若者の自立支援事業

取り組みに至る背景・事業の目的

不登校やニートなどの青少年を取り巻く課題は地方においても存在しているが、都市部と違って自立支援を担う機関が少なく、支援を必要としている青少年や保護者は孤立傾向にある。

現在、中学校卒業以降の若者の自立支援に当たっては、社会との関わりや労働体験を通じて自己有用感や自己肯定感を積み重ねていくことが有効であることが分かっている。

当該地域は農業が盛んな地域であることから、遊休農地を活用して大豆生産、管理、販売を通じて社会とのつながりを持つとともに、労働体験を重ね、目に見える形で自己有用感を得て社会的自立を果たすことを目的とする。

事業内容

- 大豆栽培管理作業（7月～10月除草など管理作業）
- 大豆収穫脱穀作業（10月～12月刈取り、脱穀作業、畑後始末）
- 大豆選別荷造り作業 1月～2月26日 選別作業（委託を含む）
- 出荷・販売 11月～2月26日 出荷
- 場所 木島平村内、飯山市内 畑
- 規模木島平村農地 2,000㎡ 飯山市農地 1,000㎡
- 参加者 若者 延べ177人（中野市・飯山市・野沢温泉村） ボランティア延べ12人



【若者達による収穫・脱穀作業】

事業効果

- 期間中の若者実習者数 延べ177人
- 大豆収穫量 230キロ
- 売り上げ 72,200円
- 選別委託代（障害者工賃として19,350円 地域高齢者への工賃1,500円）
- 活動参加者の様子 自動車免許取得 2名 専門学校進学 1名 県内私立大学進学 1名
アルバイト開始 3名 内職開始 3名
中学校不適応傾向生徒復帰 2名

工夫・苦勞した点、課題、今後の取り組みなど

- 働く体験、農作業体験といった子どもたちにとっての非日常的な体験は、自分に対する見方や周囲に対する見方を変え、自分の行動様式に変化をもたらすことが明らかになってきた。このことを生かして引き続き生産活動に取り組み習熟を目指す。
- 地域の高齢農業者から、声をかけられたり、来年度の依頼を受けたりするなど社会とのつながりが広がりつつある。居場所と出番をさらに広げていきたい。
- 若者の中間的就労の場としての可能性の研究を進め、社会的自立への手立てとする。

【選定のポイント】

ニート、引きこもりの若者の社会復帰への取組の第1歩として、村内の遊休農地を活用して大豆栽培から収穫、出荷を行い、就労体験、社会貢献体験を行うことができた。

本取組を通じて、地域の方との交流や、来年度の作業依頼があったりするなど、社会とのつながりが徐々に広がりつつあり、社会的弱者と呼ばれている若者の居場所と出番をさらに広げられるモデル的な取組となった。

団体名	特定非営利活動法人 ぱーむぼいす (木島平村)	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	090-4720-0241	事業費	1,070,275円
		支援金額	734,000円

